

せり ざわ こう じ ろう  
芹 沢 光 治 良

## ノート (1)

芹沢光治良作品を読んでもみませんか？



芹沢光治良 (1896-1993)

小説家。静岡県沼津市生まれ。人間主義的な作風で知られる。

2021 年

## 名作『<sup>パリ</sup>巴里に死す』の著者 —————

<sup>せりざわこうじろう</sup>芹沢光治良は 1896 年 5 月 4 日に静岡県沼津

市の漁村<sup>がにゅうどう</sup>我入道で生まれ、高等学校（旧制）

進学までの 20 年間住みました。

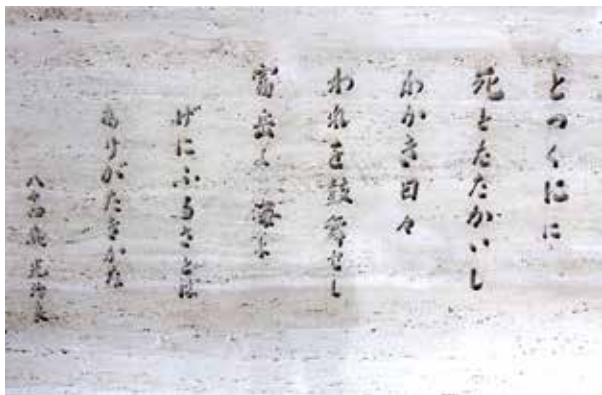
貧しさと孤独の 20 年間でしたが、まちかに眺

める富士山と駿河湾、輝く太陽に励まされる毎

日でした。芹沢光治良は 96 歳で亡くなるまで、

ふるさとを忘れませんでした。

## 碑文（沼津市民文化センター内）



とつくに

死とたたかいし

わかき日々

われを鼓舞せし

富岳よ 海よ

げにふるさとは

ありがたきかな

八十四歳 光治良

## 芹沢光治良の作品について

---

大河小説 「人間の運命」

長編小説 「巴里に死す」「サムライの末裔<sup>まつえい</sup>」

「孤絶」「神の微笑<sup>ほほえみ</sup>」「天の調べ」

など

短編小説 「ブルジョア」「死者との対話」

「落葉の声」など

日記 「芹沢光治良戦中戦後日記」

エッセイ、少女小説、児童物語など幅広い読者を対象とした作品が約 700 点あります。

## 芹沢光治良がひきうけた役職は ——

日本ペンクラブ会長、日本文芸家協会理事、日本ユネスコ国内委員、日本芸術院会員、ノーベル文学賞推薦委員などです。

また、その功績は日本だけでなく海外からも認められました。フランス友好国際大賞、勲三等瑞宝章、日本芸術院賞、フランス・コマンドール章。沼津市名誉市民にも選ばれました。

ふるさと我入道には、沼津市芹沢光治良記念館があります。

## 大河小説『人間の運命』は —————

全 14 巻版（新潮社）と全 16 巻版（勉誠出版）があります。全 14 巻版は、書き下ろしの『人間の運命』です。全 16 巻版は、作者が晩年まで推敲した全 14 巻版に、作者の希望で「次郎の生いたち」、「遠ざかった明日」を加えた完全版です。この作品は、作者が生きた近代の歴史小説でもありますが、〈どの巻からでも読んでください〉と書いています。

まず、全 14 巻版第 1 巻「父と子」（全 16 巻版第 2 巻「親と子」）から読んでみましょう。海外では韓国語でも出版されています。



『人間の運命』第1部  
第1巻「父と子」(新潮社版)



『人間の運命』第3部  
第2巻「再会」(新潮社版)



完全版『人間の運命』第1巻  
「次郎の生いたち」(勉誠出版)



完全版『人間の運命』第16巻  
「遠ざかった明日」(勉誠出版)

芹沢光治良が

『人間の運命』執筆中（8年間）に受け取った  
読者からの手紙は2,000通もありました。

作者は書いています。

〈高校生も歴史の副読本のようにして訪ねて来た〉

と。



沼津御用邸記念公園前で



芹沢作品の魅力のひとつは、<sup>みりよく</sup>“普遍性”<sup>ふ へんせい</sup>  
です。

 読者からのメッセージ・・・・・・・・

『人間の運命』を読んで



完全版『人間の運命』全16巻 別巻2巻  
(勉誠出版)

## 『人間の運命』 「父と子」／「親と子」



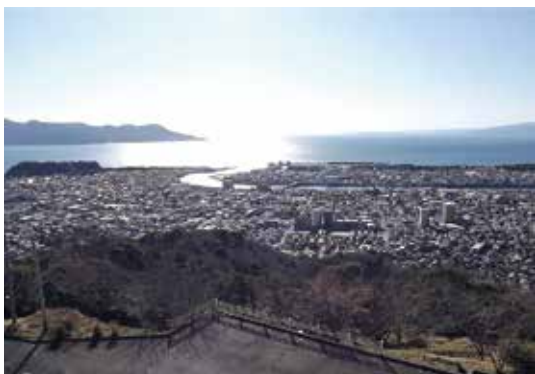
明治の中頃。主人公の森次郎は、小学校の弁当の時間に、井戸水で空腹を満たして我慢するほどの極貧のなか、必死に進学の道を探り、中学校（旧制）に進学します。先生や友人、村人から、学問、友情、誠意の大切さを学び努力する次郎に、富士山と駿河湾が力をくれます。希望を糧<sup>かて</sup>に自分の「運命」を拓<sup>ひら</sup>いてゆく次郎を、応援したくなります。



く 風光は明媚、気候は温暖、天産は豊富、

住人は温和で天国のような沼津に、自分たちの  
祖先が土着したことを、家できいて見なさい。〉

主人公・森次郎が聞いた歴史の先生のことばを  
読みながら、自分のルーツに思いを馳せ、しば  
しタイムスリップを楽しみます。



現在の香貫山からみた我入道附近



主人公が、20年間育った沼津。我入道<sup>がにゅうどう</sup>の

松林、不動岩と夕日、狩野川<sup>かのがわ</sup>の河口……。恩師  
や家族、友達に対して思った次郎の心の動きが、  
ここを舞台に丁寧に描かれています。

作品を読むと、沼津の街を歩いてみたくなります。



現在の我入道・狩野川河口不動岩



狩野川河口の作者

## 『人間の運命』 「孤独の道」



『人間の運命』第2部  
第1巻「孤独の道」(新潮社版)



完全版『人間の運命』  
第8巻「孤独の道」(勉誠出版)



かんり

官吏の将来と、大学講師の職を捨て、作家になる決心をした次郎。なかなか賛成しない妻、さらに子どもがいるなかで、至難の道をえらびます。よほど強い意志が必要だったでしょう。次郎を通して、「自分の未来を自由に決めること」の意味を、ふかく考えさせられます。



経済学研究でフランスに留学した次郎は、当時死病といわれた肺結核に冒おかされます。しかし、「生きる」ため、スイスで、孤独で厳しい療養生活に専念し、帰国を果たします。そしてこんどは自分の「人生」のために、作家の道を歩もうとします。次郎の強い覚悟を感じます。



孤独で厳しい療養生活 (スイス)

## 図書館にある本

---

から触れてみて下さい。

作品の登場人物は、読者とともに喜んだり、怒ったり、悲しんだり、楽しんだりします。

だれにも分かる誠実な文章です。



沼津市芹沢光治良記念館

## 【入手可能な芹沢光治良の主な作品】



『巴里に死す』



『芹沢光治良戦中戦後日記』



少女小説集『緑の校庭』



『孤絶』



『サムライの末裔』





『芹沢光治良文学館』  
全12巻



愛蔵版『神と人間』  
全8冊セット



愛蔵版『人間の運命』  
全7冊セット  
(新潮社版)



完全版『人間の運命』  
本編16巻・別巻2巻  
(勉誠出版)

## 【あとがき】

狩野川河口の我入道を訪れると、芹沢光治良作品の根っこにいつもある、ふるさとも感じる事ができます。『人間の運命』について、皆さんはどのような印象をもたれたのでしょうか。作品とのすてきな出会いがあることを願っています。

まだまだ、ご紹介したい作品がたくさんあります。

次のノートもお楽しみに。

芹沢光治良と、その作品について、どのようなことでもお問い合わせください。

芹沢光治良記念文化財団の代表理事・岡玲子様は、本誌を企画し、完成を楽しみにされていましたが、6月6日に急逝されました。御霊前に謹んで本誌を捧げ、ご冥福をお祈り致します。

## 芹沢光治良ノート（1）

2021年7月7日 発行

監 修：勝呂奏（桜美林大学教授）

編 集：池田三省 劔持直樹 清水美穂 不破久温

協力・写真提供：沼津市芹沢光治良記念館

発 行：一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団

〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-3

メール serizawa52@nifty.com

ホームページ (URL) <http://serizawa-kojiro.com>



印 刷：有限会社マエダ印刷

文学は

もの言わぬ

神の意思に

言葉なき

をなすことだ

光治良